

水晶体の等価線量限度の検討に関する 放射線審議会での意見

資料 1

第134回 放射線審議会 総会（平成29年6月16日）

- 取り入れの是非ではなく取り入れを実現するための検討が必要。（神谷会長）
- 実行可能性の確保のため現状を把握したうえで現場や状況に合わせた適切なモニタリングや管理方法について示すことが必要。（横山委員、藤川委員）
- 関連学会と連携し適宜、聞き取りなどをしながら（医療等の）現場の実情をよく踏まえて検討をすすめるべき。（杉村委員）
- 国際的な潮流のもととなったエビデンスとその理解が重要。あわせて国内の実態や科学的知見の整理も求められる。（甲斐委員、松田委員）
- 線量を管理する仕組みも重要であることから、中長期的な課題として職業被ばくの一元化管理的な観点も考慮すべき。（神田委員）
- 規制影響分析といった手法を意識してとりまとめるべき。（岸本委員）

第135回 放射線審議会 総会（平成29年7月21日）

- [今後の進め方] 実施に向けた具体的な検討（実態把握及び適切なモニタリングや管理方法等）と将来的・継続的に取り組むべき課題についての検討の2つに大別し、拙速な議論は避けつつも前者は年度内を目途にまとめる。